



光の子どもの会

CANOA だより no. 41

2007年10月発行

文・写真_鈴木真由美 編集_橋口博幸 発行_ブラジル事務局
Praia do Estevo s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000



『ブラジル北東部貧困漁村における、子どもが将来を選択していける教育の基盤作り』として、2007年4月1日～2008年3月31日の一年間のプロジェクトがスタートしました。現在行っている活動の強化事業として行われる今回のプロジェクトでは、現地スタッフ6名に向けた毎月一回の教育学講座開催及び、地域住民一般に向けた保健・衛生問題に関する講座及びキャンペーン(隔月一回)を実施しています。継続した活動を行っていくうえで必要不可欠である人材の育成の強化を図りたい。そして、可能ならば地域住民に向けた保健・衛生問題にも取り組んでいきたい。それを今回の助成事業で実現することが出来ることとなりました。教育学講座では、自分の人生から学ぶ取り組みを前期で行い、コミュニケーション問題や子どもの観察から学ぶこと、色彩の授業等を実施してきています。保健・衛生問題に関しては現在まで性教育や環境問題、寄生虫問題に関する講座を開催し、30～50名の住民が参加してくれました。少しずつでも私達の住む環境を見つめ直し、共に取り組んでいく中でよりよい将来を迎えることが出来るようになればと願っています。

地球市民財団より 助成を頂きました

●投稿・ご意見の宛先

〒221-0841

神奈川県横浜市神奈川区松本町 1-7-1

光の子どもの会 日本事務局

FAX 045-321-1824

E-mail : horiike59@msi.biglobe.ne.jp

※ お名前、所属、職業、年齢、住所、電話・FAX番号、E-mailアドレスを明記してください。匿名での掲載をご希望の方は、『匿名希望』とお書きください。

皆さまお久しぶりです。「CANOAだより」として(こうして)皆さまにお届けするのは、十ヶ月ぶりくらいでしょうか。本来ならば年に二回、皆様にお便りを送ることになっていのですが、今年度は七月に総会を行い、そこで帰国報告会をさせていただいたこともあり、たった一度の発行となっていました。現地の様子などを知りたいと、便りを待っていた方もいらっしゃると思います。申し訳ございませんでした。来年度は年二回の発行を行う予定です。皆さまぜひ楽しみにしてください。またご意見やご感想など、皆さまの声もこの通信上に掲載させていただければと思います。皆さまの投稿・ご意見をお待ちしております。

8月23日～27日まで、慶応大学医学部国際医学研究会による公立小学校5～9年生を対象にしたAIDS/HIVの授業及び眼科検診が行われました。眼科検診ではサンパウロの眼科医による視力検査及び白内障等の検診が行われ、140名中10名が白内障及び緑内障と診断されました。住民の多くは眼科検診を受けたことがなかったために、初めて失明している事を知った住民がいた事に私達スタッフも驚きを隠せませんでした。

そして8月27日から9月7日まで東海大学の学生がカナオに滞在し、住民へのニーズ調査や現状の把握調査が行われました。人口約300人という小さな村ではありますが、中でも貧富の差が広がっており、今住民が望むことやニーズを知ることは今後の活動にとっても重要なものとなりました。また、9月2日～5日まで慶応大学医学部の三浦先生(熱帯寄生虫学専門)が寄生虫講和及びギョウチュウ検査を実施してくださいました。2年前に行われたギョウチュウ検査では100%という結果だっただけに、今回陽性率たったの8%であったことは衛生的な観念が少しずつでも村に浸透しているといえるのではないかと嬉しい報告でもありました。私達では実行できないこのような専門的な調査や検査を実施できた事はとても喜ばしいことであり、この場をお借りして慶応大学国際医学研究会及び三浦先生、東海大学の学生さん達に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。今後も現地において教育だけでなく保健・衛生においても活動していく事ができるよう、努めていきたいと思っています。

慶応大学医学部、東海大学の学生に感謝

現地活動報告

2007年度、ボランティアの家として使用されていた場所をエステヴァン村住民協会の了承を得て改装し、現地法人である『Associação Crianças de LUZ』の活動拠点として使用することができるようになりました。1999年よりブラジル东北部カノア・ケブラーダ地区の小さな貧しい漁村“エステヴァン村”で活動を行ってききましたが、自分達の活動場所を持つこととなったのは初めての事です。今まで施設を借りている立場であったために、やり遂げる事の出来なかった環境整備なども、現地スタッフと頭を悩ませつつも少しずつ形にしているところです。

2007年9月現在、保育園には3～5歳児15名、一年生(旧プレ・エスコラ)に6歳児7名、学童教室に7～10歳15名が元気に通ってきています。前期には一年生の担任が健康上の理由のために休職したため、一カ月半の間、私が担任として受け持つ非常事態もありました。しかし後期からは保育園で助手をしていた教師が担任となり、新たに助手を加えて再出発を図りました。

■保育園における大きな課題…

保育園では、新しい助手の経験不足から担任教師とうまく連携できないために、一時期は『来年度の保育園開設は無理ではないか?』というほど困難な状況になりました。後期(8月～12月)に新しく3歳児が4名入園し、多動性の強い子ども2名(3歳児と5歳児)がクラス中を振り回してしまう結果となっていた保育園。噛みつきや殴る・蹴るといったことが日常茶飯事となり、数名の保護者からは“子どもを保育園に通園させるのを控えさせて欲しい”との申し出がありました。

私自身、娘が保育園に通うようになってすぐ、同じ子どもから2度の噛みつきがあり、毎日のように怪我をしてかえってくる姿を見ていたために、親として、自分の子どもをこのような保育園に通わせることは出来ないという保護者の気持ちも痛いほど分かっていました。自分の娘でさえも保育園に行きたくない駄々をこねる毎日。保育園を運営している立場だからこそ分かる教師やその困難な状況。

それでも私自身が「これ以上娘を保育園に通わせるのは…」と感じているのなら、そのほかの保護者がどう感じているのかは簡単に想像することができます。

担任教師及び助手との話し合いを何度も重ね、現地スタッフ皆で対策を考え、多動性の強い子どもの家族との面談、保護者会、今後どのようにしていくか、子ども達にとって一番良い方法とは何なのかを話し合いました。

担任教師が多動性の強い子どもに注意を向けていければいるほど、他の子ども達がおろそかになってしまう現実。それが分かっていたからこそ、経験の浅い助手には重い責任となってしまいますが、多動性の強い子ども達に付き添っているようにアドバイスをしました。そして、いつどんな状況のときに噛みつきやケンカなどが行われるのかそれを徹底的に調べ、その時には教師がすべての子どもをきちんと見守ることが出来るような環境設定を考慮することとなりました。

様々な対策を得て2週間が経ち、見違えるように子ども達も落ち着いてきました。しかし未だに大きな課題を残しているといわざるを得ません。子ども達が笑顔で、元気よく通い続けることができるように、これからも現地スタッフ共々取り組んでいきたいと思っています。

■アトピー性皮膚炎の子どもの対応

後期から保育園に通い始めた子どもの一人が強いアトピーをもっていることが分かりました。ボランティアとして活動に参加していたドイツ人看護師がその対応に努め、現在担任教師を初め現地スタッフ皆で対策にのりだしています。

多くの食物にもアレルギー反応があることが認められるため(医学的な検査はまだ実施していません)、保育園のおやつや給食の制限、手洗いには石鹸を使用することが出来ないためにココナツ石鹸と牛乳、オリーブ油を混ぜたものを毎朝用意し、使用しています。カノアの子ども達が着ている洋服の多くは人工化繊のものであるため、なるべく綿100%の服を使用するように促します。ただ、食事や衣服など、家族に金銭的な問題があるために対策が十分に取れている状態ではないのです。それでも少しずつできることから始めていこうと、教職員、家族を始めとして今後も皆で取り組んでいきたいと考えています。

■女性グループ

伝統工芸品であるライピリントを始め、カバンなど、様々な物品の製作に

取り組んでいる彼女達。しかし、それぞれ家族や日雇いの仕事などを抱えているために、毎日午後集まろうと決めていたところが週に2回となり、製作のほとんどを各家庭で行うようになっています。

それでも、こつこつ作業していく中で、少しずつ収入を得られるようになってきており、当初の予定のように自分達のお店(といっても屋台ですが…)を出すまでには行かず、小さい歩みながらも一歩一歩前に進んでいるというのが現状です。

私が日本に一時帰国した際には多くの方にこういった女性グループの物品を購入して頂き、本当にありがとうございました。また、(株)カメイ・プロアクトからはライピリントの注文が入り、その製作にも励んでいます。現地では、サーフィンメーカー(洋服なども作っている)であるMAREZIAから毎月布や端布の物資支援をいただけることとなり、今後裁縫教室などを地域の女性達に開いていけたらと構想中です。しかし当初の目的のように、広く地域の女性達が関わってくれるように…というには程遠く、10名ほどの女性達が継続的に製作に携わっているというのが現状です。

村の女性達は手先が器用で、作品を作るときのアイデアなどにも優れています。文字の読み書きや計算が出来なくとも、少しでも家計を助けていく方法となっていけば、自分達の作った物品が多くの人に認められ、喜ばれているという事は彼女達にとって大きな意義があり、向上心へと繋がります。今後も一歩一歩、彼女達と共に物品の製作・販売に努めていきたいと思っています。

※すでに物品を買ってくださった方、もしくは作品を見たことがある方、『こうした方がもっと売れるのではないか?』と言ったアイデアなどもお待ちしております。<投稿・ご意見の宛先>まで、ぜひお寄せください。

■サッカー教室

コーチを務めていたマルシアーノが体育教師になるべく夜間大学に通い始めたために、以前週3回(平日2回、週末1回)行われていた練習は残念ながら週1回となってしまいました。今まで7～16歳までの男女を指導していたのですが、9歳以上の子ども達は村のほかの男性にコーチを引き受けてもらい、6～8歳12名の子ども達が毎週元気に練習に励んでいます。サッ

カーの技術よりも、まずはチームとして仲間意識を持つこと。勝ち負けにこだわるのではなく、負けも勝利への一歩に繋がる事を学び、どんなことから学んでいくという姿勢を育てること。この2つは、サッカー教室開講当初から掲げてきていることです。

チームワークというのは、個人の技術が高く評価されているブラジルにおいて、その気持ちを育てていく事は困難を極めます。しかし個人個人の技術があっても、一人で行う競技ではないために、仲間との意思疎通が試合では重要となってきます。ブラジルでは今、個人技術を高めることと同時にチームワークを育てることを積極的に行っている現状があるのです。

練習が週一回となってしまったために練習試合も以前のように月一度というわけにもいかず、子ども達は早く試合がしたいとウズウズしています。ブラジルでは10月12日がこどもの日として休日となります。この日も子ども達は久しぶりに試合を行うことになっていますが、結果は、またいつかご報告させていただきます。

■ ボランティア

2007年、たくさんのボランティアが私達の活動に参加してくれました。

1/30-2/22 : Friederike さん

ドイツ人、学生（医師希望）、聾唖の子どものケアを担当

3/5-4/4 : 山西広恵さん

学生、午前中は給食作り、午後は学童教室でお手伝い

4/20-6/20 : 磯崎豪司さん

学生、学童教室のお手伝い、日本語 & 日本の文化教室開講、運動会実施

5/14-6/25 :

Sabine さん

ドイツ人、学生、聾唖の子どものケアを担当（子どもとその家族に対して手話教室を開講）

Tom さん

ドイツ人、学生、英会話教室と子ども達に大工教室を開講、学校の庭に藁葺きの家を建設、小学校分校のお手伝い（週3回）

6/25-8/31 : Johanna さん

ドイツ人、看護師、聾唖の子どものケアを担当、自室で診療所を開設、補習授業の実施

7/2-7/14 : 井上由巳子さん

日本語教師、長期期間中に特別教室を開講（日本週間、ブラジル週間を設定し、言葉や文化を学んだ）

8/24- 現在 : Hannah さん

ドイツ人、看護師、聾唖の子どものケアを担当、自室で診療所を開設

9/3-9/30 : 稲谷千妃呂さん

学生（保育科）、プレ・エスコラ（6歳児）のお手伝い

9/3-9/30 : Roxana さん

イギリス人、幼稚園教諭、保育園で多動性の強い子どものケアを担当、教育講座開講

9/10-9/30 : 坂井春菜さん

学生、給食作り及び小学校分校のお手伝い

「言葉も分からず迷惑ばかりかけていた」という感想を残す人がほとんどではありますが、それでも、ここカナアで私達と共に過ごした時間の中で生まれたものはかけがえのないものであり、その小さな宝物が、いつか子ども達の未来の中で花咲くことがあるかもしれません。学生の方がほとんどではありますが、看護師や教師といった専門職の方がそれを生かした形で活動に貢献して下さい、現地スタッフだけでは到底叶える事のできない地域住民のニーズにも答えてくれました。この場をお借りしてボランティアとして活動に参加して下さった皆さんに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました！！

◎ ボランティア希望の皆様へ

現在カナアの活動を担っている現地団体 Crianças de LUZ ではボランティアを受け入れています。3ヶ月までの短期ボランティアについては、直接当団体にご連絡をいただければこちらから資料をお送りし、現地団体の了承が得られた時点で受け入れ可能となります。

多くのボランティアの方が1~2ヶ月でカナアを発ってしまうので、今後、半年以上活動に参加して下さるボランティアが増えてくれる事を願って止みません。



チャレンジ・ブラジル

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-17-11
パークハイツ池袋 504 号
TEL 03-3986-6770 FAX 03-3986-6772
<http://www.challenge-brasil.com>

長期滞在についてはビザ取得、ブラジルでの生活や皆様の疑問・質問に直接答えられるよう、当団体では『チャレンジ・ブラジル』と協力し、日本での準備、ビザの取得等をお願いしております。皆さまどうかご理解いただけますように、よろしくお願い申し上げます。



平成 18 年 12 月 1 日～平成 19 年 9 月 27 日現在までに会費及び寄付を頂いた皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。

目標会員 100 名！！

(順不同)

Sr. Franco
 Sr. Raimundo Carlos Limaverde
 Sr. Henrique
 Sr. Diego
 Sra. Manú
 Sra. Claudia
 Kinder Brasil
 安孫子季久代 様
 臼井洋明 様
 太田朋子 様
 大谷タカコ 様
 大塚晶 様
 奥山海平 様 (チーム ポンパー)
 影島清恵 様
 梶沼大 様
 金本りせ子 様
 神谷須賀子 様
 川原翼 様
 神田昌実 様
 神戸保・めぐみ 様
 桑山寛子 様
 (株) ジェイ・ロジコム
 四季の祝祭を祝う会
 鈴木真由美 様
 諏訪田あつ子 様
 東京都公立保育園研究会
 長谷川宏 様
 平岩美弥子 様
 堀池真輔 様
 堀池ミツ子 様
 松丸綾乃 様
 矢崎美恵子 様
 山西広恵 様
 吉田可南子 様
 陸川 様
 レインボーリーブス 様
 脇安子 様

有り難うございます！！

カノアでの 雑誌への連載

カノアでの活動や生活を通して、皆さんと共に学びあうことができるのではないだろうか？そんな思いから、現在下記の 2 つの雑誌にカノアの活動のこと、日常生活で感じたことなどを連載していきます。ご興味のある方はぜひご覧下さい。

■婦人通信

〒 151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-11-9-303

婦人通信編集部

TEL 03-3401-6147 FAX 03-5474-5585

E-mail fujin-tsushin@cotton.ocn.ne.jp

<http://www.16.ocn.ne.jp/~fudanren/>

■めたもるふおーぜ

〒 520-2271

滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

TEL/FAX 077-546-4147

E-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

<http://www.geocities.jp/metamoru4se/>

光の子どもたちの会

(光の子どもたちの会) では、会員、協力会員を募集しています。支える会では(手工芸品の販売)(講演会)などにより多少の収入がありますが、充分な額ではありません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。

頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費となります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員：年会費 5000 円

協力会員：年会費 1 口 36000 円以上任意額

尚、寄附、カンパは随時受け付けています。

<郵便振替>

口座番号：00280-1-41787

加入者名：光の子どもたちーカノアの活動を支える会

<ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座>

Agencia 0121-x

Conta Corrente 26357-5

Associacao Crianças de LUZ

支援者募集 !!!

今後も『光の子どもたちの会』として活動を継続していくために、最低でも現在 32 名の会員を 100 名にまで増やすことが必要不可欠であると考えています。現状では現地での活動を支えていくために必要な最低限の費用をまかなっていく事も、難しくなってくるでしょう。一人でも多くの方に会員になって頂き、また寄付を頂くことができますよう、皆様のご支援・ご協力をお待ちしております。チラシの配布など、個人・団体問わず当団体の啓発に努めて下さる方はぜひ、日本事務局までご連絡いただければと思います。

光の子どもたちの会

日本事務局 (堀池事務局長)

TEL/FAX 045-321-1824

E-mail : horiike59@msi.biglobe.ne.jp